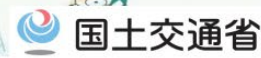


コミュニティバスの自動運転化による散居地域及びその地域学校・観光の足確保(埼玉県深谷市)



まちづくり×交通

事業実施主体

- 【共創プラットフォーム】
深谷自動運転実装コンソーシアム
- 【実施主体】 埼玉工業大学
- 【共創パートナー】 深谷市 (自治体)
深谷観光バス株式会社 (交通) 他

地域課題

- ・ 渋沢栄一の観光拠点が集積する深谷市北部地域を巡回可能な路線バスがない。
- ・ ドライバー不足を原因として市内の民間路線バス廃止、タクシー廃業が起こっている。

実証事業の内容

- ・ 地域関係者との共創を前提とし、産学官連携による「地産地消」自動運転バスの実証運行を実施する。
- ・ 実証運行の結果や利用者アンケート等を通じて自動運転技術導入を含めた地域の目指すべき方向性を検証する。
- ・ 検証結果を踏まえ、現在のコミュニティバス「くるリン」北部シャトル便を共創によるリ・デザインと自動運転化を加えた新たな路線として再編する。(令和7年より運行開始予定)

今後の展開

通常のコミュニティバス運賃とは別の収入スキームを導入し事業性確保を計画している。現行のコミュニティバス運行に係る運行協定に基づく赤字補填型補助の形態を前提とし、その上で収支改善の取組を行い市の負担額削減を目指す。

事業実施区域



事業体制

